

京劇は、中国の“国劇”といわれ、現在、チベット自治区を除くあらゆる省に劇団が置かれ、中国の伝統劇を代表する演劇としてその位置は不動です。伝統に支えられた独特の演技術は、言葉の違いや風俗習慣の違いを超えて私ども日本人にも十分に堪能できる舞名劇です。

『上海青年京劇訪日団』は、昨秋9月29日から11月24日まで約二か月間にわたって、30会場、52ステージの公演を消化し、約5万人の観客に大好評を得ました。

中国京劇界で注目を集めて“色彩の旋風”といわれる女優一史敏一をはじめ、18歳から21歳の若々しい公演団です。

## ●上海青年京劇訪日団

上海青年京劇訪日団は、中国京劇界の先端をゆく【上海京劇院】の青年俳優の中から選抜されました。

【上海京劇院】は1955年、梅蘭芳とならび称される名優、周信芳を院長として成立しました。一代で“麒派”の名を高めた周信芳の指導のもと、鍛えられ、育て上げられた芸風は国際的にも高い評価を得ています。

海外公演は、ヨーロッパ各国から日本、東南アジアに及び、1961年設立の中国京劇院と人気を分かっています。

“麒派”の芸術は、梅蘭芳が「きめ細かい所作とあふれるような感情表現」と評したように、人物像をくつきりと浮き立たせる舞台作りが特徴です。周信芳の至芸は、脈々と受け継がれていますが、今回来日する団の(史敏)を中心とした若手俳優はその息吹を身体全体に感じさせるフレッシュな編成です。

## 演目紹介……

### ★雁蕩山

隋朝後期、武将の孟海公は民衆を率いて蜂起しました。隋朝の將軍賀大龍はこれにかなわず雁蕩山に逃げ込みます。孟は軍を率いて追撃し、夜戦で敵軍をいためつけ、賀は敗れて湖に落ちのびますが、孟は追いつめられて湖での戦いとなります。

劇は、“陸の闘い”“水中の闘い”“城壁の闘い”と三つの場面で展開され、若い出演者は、彩やかなアクロバットで見事な追撃戦を一気呵成に演じます。



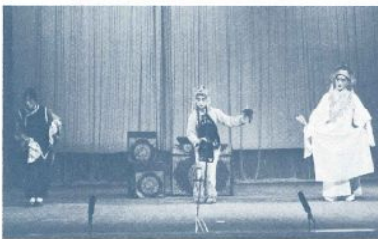
### ★火の鳳凰

一群の白鷺が住む、花咲き誇る楽園のような島がありました。ここに残忍な鷺が白鷺たちを襲い、島を独り占めにします。白鷺たちはこれを畏れず団結して悪い鷺と戦います。鷺王と闘う白鷺の女王は火の鳳凰となって勇敢に立ち向かいます。

上海市戯曲学校のホープ“史敏”が火に包まれる場面で赤い布を巧みに操る美しく高難度の芸を披露するほか、出演者全員による立回りは観心えのある舞台です。

ある日孫玉嬌が家の前で刺繍をしていると若者の傅明が通りかかり、2人は一目見てお互いに心を魅れてしまいます。傅明は心の証に門口に玉の腕輪を落とし子をかかいます。腕輪を見つけ喜んだ娘は、こっそり拾おうとしますが、お節介な隣のおばさんに見つかってしまいます。仕方なく娘は気付かれないように腕輪を戻します。いじらしい恋の企みをきめ細かいパントマイムで披露します。

### ★拾玉鐲



### ★三岔口「楊家将全伝」から

宗の時代、悪だくみにはまって流刑囚となった武将・焦贊は、護送役人に連れられて、三岔口の宿に泊まります。

その焦贊を助けだそうとして、密かにつけてきた任堂恵は、宿の主人・劉利華を、敵の刺客と疑い、2人の格闘が始まります。果たして誤解は溶けるのでしょうか。

舞台は真つ暗闇の設定。セリフなしで、死と紙一重の立回りが展開されます。

京劇の立回りの名作といわれる作品です。



### ★民族楽器演奏

# 上海からやって来た絶妙のアンサンブル